

# 歐洲を巡歴して

藤井眞透

歐米旅行中の内務技師藤井眞透君から本誌の爲に旅行感想を寄せられ、毎號連載して来たが、誌面の都合で全部を登載することが出来ない内に氏は歸朝された。寔に汗顔の至である、て茲に其の全部を吐き出して謝罪する。然るにドー間違つたものが「巴里を訪れて」を前月號に登載した「伯林を訪れて」の前に登載すべき筈であつたのに夫を落した、茲に併せて登載し筆者始め讀者諸君にお詫する。(田中好)

## 巴里を訪ねて

かしい近世文化の粹を見せてゐる。

「ギリシヤ」から「ローマ」を経て、進歩して来た歐洲文化の傳統をもつものは「フランス」である。「コンコード」、「エトアール」、「ベルサイユ」、「フォンタンブロー」に輝

ガブリアン氏を訪ねる。政府の土木局(Travaux Publiques)で會ふ。ワシントン以來の久淵を想し、記念として我が土木學會の工事寫真集と、日本風景アルバムを贈呈した。尙

拙者、内務省土木試験所報告十、十六、十七、十九號をも贈り説明すると、非常に喜ばれた。道路に關する色々な實驗式などにつき談つた。尙同國の大學研究所の報告、工事紹介、その他佛國道路の報告等に關するリストを頼んで置いた。

一 國立道路、橋梁大學 (Ecole Nationale des Ponts et Chaussées) を參觀に行つて學校の組織、内容等を見た。何れ英獨米の道路に關する大學と、その内容について比較して見たいと思つて居る。

尙同大學一覽案内、一九三一年度入學規程、及び教務細則などをもらつて來た。

二 同大學附屬の第二材料研究所を「イエナ」街に訪ね、主任技師「マルコ」氏 (Marco) に會つて案内された。

同氏は土木材料及施工法 (三卷) と云ふ浩瀚な著書を著した篤學の士である。又同研究所はあの有名な「デバル」ド「リー」などの石材試験方法を定めた由緒ある所である。

三 同大學附屬第一材料研究所は化學に關するもので「サ

ンペール」街にある。主任は「マレー」氏 (Malle) である。

此所は比粘度計として有名な F. P. C. Consistometer (道路、橋梁大學式比粘度計) をもつてゐる。同氏と「タール」の比粘度について色々話をしたが最後に同氏著「F. P. C. 式比粘度計によるタール比粘度に就て」及び「乳劑中に於ける水分の決定」の二冊をもらつて來た。又材料試験方法の印刷物ももらつた。同氏には此外「モルタル及コンクリートの欠點」と云ふ著書があるが、前記「マルコ」氏と共に篤學の士である。前記二つの研究所の所長をル、カブリアン氏がつとめて居る。

四 エコール、ド、サントラルに接してある工業試験所には機械、物理、構造材料、金屬及び化學の五部がある。金屬部に居るジレー氏 (Guille) は有名な人である。セレリール氏 (Cellier) が此試験所の主任であるが、同氏の不在のためロンゲイロール氏 (Yves Ronguayrol) を訪ねて案内してもらつた。

今まで諸所で耐火試験も見たが他のものは多く耐火構造

に實際の壁を試験體として用ひ内部を高熱にして破壊程度を見るが普通であるが、ここは熱の傳導率比熱を各種の方法で試験するが如き科學的のもので、僕は興味を感じた。材料試験の國際會議のことについて色々話をした。此試験所に接して科學博物館が設けられてゐるが、他の通俗的なものとは趣を異にし科學實驗室に於て用ふる装置のモデルの如き精巧なものが多い。ラボアシール (Lavoisier) パスカル (Pascal) の如き科學者は茲から出たのである。

五 市役所にブーティエ氏 (Boutetille) を訪ねた。同氏は巴里市道路及照明技師長である。巴里市に於ける舗装について話し又將來の方針について語られたが、又施工方法も是非案内するからとのことで巴里を出發する前日の忙しい一日を割いてかけ巡つた。

巴里市土木事業報告を一冊贈られたが、之によると市中街路の六〇%は石塊、二〇%は木塊であるが、それにはビスケー海濱から産する松を用ひてゐる。小舗石道で乳劑を目地に用ひてゐるものが近來非常に多いが、將來此工法が

一番多く用ひられるだらうとの同氏の話である。

六 巴里道路第五、六、十三、十四、工區主任技師であるボンケ氏 (M. Ponguet) が自動車で迎へに來てくれて小舗石とコンクリート舗装との現場を見せてくれた。小舗石の方は混凝土基礎の上に鋪設するもので乳劑目地を用ひてゐる。混凝土の強度は二五〇砵位である。

混凝土舗装の方は基礎の用量は二五〇砵表層には五五〇砵位である。その施工方法も一寸興味をひく。但し横斷勾配を算出する式は舊式なものであつた。

七 政府の道路橋梁技師ラング氏を「ポルト、ド、ナビガチオン」に訪ねセイヌ河に關する工事の話を聞いた。コンコードの橋の取擴工事を主任として現在やつてゐるが、同工事の工事報告を一冊もらつてその苦心談を聞いた。

八 下水主任技師デミアン氏を訪ねて巴里下水工事を見せてもらつた。シャトレーの人孔から下水の中に入り數軒を視察した。此工事は實にナポレオン三世、オツスマンの時代に始まつたもので一八五〇年に一三六籽のものが、一八

五九年に更に大いに進捗し一二六〇軒となつたものであるが、今から七、八〇年以前のものとしては驚くに足りる。

「下水の淨化作業」と云ふ冊子をもらつた。

九 巴里郊外の地方道路はトリニダツト、アスファルト會社の案内でセント、クロード、ベルサイユ、チュイシイ、ソラン等を廻りセイヌ、メンスの諸郡に亘つて視察した。互に特質のある路面形状、並木等に興味を感じ、又ローマ時代に出來た道路の雄大を味つた。英米等の道路とその特質を異にせる巴里道路はまた味ふべきものが多い。

## 巴里を見る

一 ルイ十四世の治世、七二年間その王孫ルイ十五世の六〇年合せて一三二二年の發展は巴里に輝しい治蹟を残した。

ベルサイユ、トリアノン、インバリツド、パンテオン、ルイブル等の巨大な建築物を残し更にナポレオンの治世に於ては「シヤンゼリゼー」三六〇呎巾の廣路や、エトアールの辻を造り限りなき橋梁を完成し、次のナポレオン三世の時

代には「オスマン」によつて設けられた道路計畫、地下埋設物施設は支那の萬里長城や、ローマの城壁にも匹敵すべき大土木工事である。

然し科學は時代と共に急速に發達して止まない。オスマンが造つた道路系統は當時に於ては極めて合理的であつたが、現在の自動車の發達や地域制の變化はその合理的であつた施設を超越してしまつた。「マデレイン」「オペラ」「ベンドン」等を中心とする都心の交通系統は極めて複雑にして曲折せる路線をとり混亂してゐる。

二 英國で「ケンブリツヂ」や「オクスフォード」の學生は手をポケットに入れたままサインカーブの形を畫いて道路を歩いてゐるが、巴里ソルポルン大學の學生は坂道の頂に於ける縦曲線のブロークラインの様な足跡をたどる。巴里特有の廣路に於ける歩行者は極めて複雑な複曲線を畫き、曲線分拆の數學者を必要とする様な曲線である。かくの如き廣路はフランスの國民性發露である。従つて道路幅員の決定に當り歩道の幅は極めて廣くとつてゐる。

三 南佛ボルドウ附近に鋼拱橋の架橋をやつてゐた。あの有名な「エツフェル」が某國人の言葉に激して四六才の時あの高三〇〇米のエツフェル塔を建てたのだ。而もブロンヤとの戦に敗れ五〇億フランの賠償を負ひながら僅か八年後に二年間に完成した偉蹟は、歐洲大戦後完成したサクル、コール (Saare Coner) のドームと共に巴里の誇りである。エツフェル塔を含むシャン、ド、マースとトロカデロとを結ぶ間に東京通り (Avenue de Tokyo) と云ふのがあつて我々に快い感じを與へる。

四 科學的なフランス人にも似ずシャンゼリセー街の中にロン、ポアン (Rond Point) と云ふ所がある。ポイントは何學上形のあるべき筈がない、然るに圓い點と云ふ地名はおかし。五 ロンドンの砂岩に對して巴里の石灰岩はその優美を誇つてゐるのだがコンコードにあるオペリスクはエヂプトのラムス二世の昔をかたり花崗岩の耐久性を雄辯に語つて居る。

## 獨逸地方を旅して

### 一 スツドガルトの夜

Württemberg の Hauptstadt Stuttgart の Hotel Bahnhof で遙かに故國を偲んでゐる (mai 3)

佛國で Gavrian が ing. Blanchard に逢ふとの事であつたが dignity を考へてか、自國語しか語らない佛國の不便と時日の關係で Department somme の ing. Blanchard に手紙をだしてその新工法を尋ねたら、是非來ないかと叮嚀なる手紙を送つてくれて設計工法七部よりなる Emulsion 工法を知らしてくれた、時日があつたら行きたいと思ふ。Berlin を立つて Sachsen の Hauptstadt Dresden にゆく。Dr. ing. Speck を Finanzgebäude に訪ふ、交通量と路面工との關係の合理的解決、交通量の analyse が彼の得意と感じた。Kraftzug と Fahrzeuge との比が一九二四—二五に六二、五%と三七、五%であつた。一九二八—二九に八七、五%と二二、五%に變化したと説明した。

午後から Sachsischen Strasse を案内しやうとの事を辭し更に Materialprüfungs Amt 及 Hochschule の prof. Wawronik を訪ふ。授業中で逢ふす Yacoby 氏が案内した Amt に demonstration Zimmer があつたのが目立つ、彼の實驗は主として自動車工學に關するもので、reibungs coefficient をやつて居た。長さ 40cm の torsion の試驗に Martens を七ヶも使つて居た。

Berlin の Amt に見残した metal の實驗室を見る。sheet test もあつたが、Rockwell Hardness は聞したが、やつてなかつた。Stimmine の試驗もあつて居た。

New Hooh schule に prof. Geisler を訪ふに Washington の話を語り更に同校の授業内容をもらつた。

午後 Dr. Speck 及其の部下の Oberregierungsbaurat の Grohmann が自動車に迎へて來つて Sachsischenstrasse を案内してくれた。

bogen 型 Kleinpflaster は Bayerische のものだ、それは今なら skewback が弱くあつたさうかと sachsischen Strasse

を尋つてゐるものを買つてやつた。

oberflächenhandlung が 100 へ 250km を走る。

Dippoldiswalde, Kipsdorf, Altenberg, Zimmwald と山間部に drive した Zimmwald は 100 と Czechoslovakia であつた。他國にも Rehfeld の Cafe で御馳走になつた。

Zement 工場は不幸にしてゐた。従つて Zementstrasse なども Emission 工場九や 10 へは Colfix, Ezimimus, oüphalt, Webas, Mexas, Normus, Kolbit, Irga, Yafix 及び Klon, Magnon は聞したが氏は使つてゐる。

日本の試験成績 grade と distance の關係なる興味をもちつて一時間餘りも語り、彼の得意とする Umgehungsstrasse を特に迂迴して案内してくれた。

Dresden を發して Checo に入る praha は 1901 年 Krieg の記念に充ててゐる。僅か三時間、Hosek を訪ふ時なほ beschling に始終した gross pflaster, Klein pflaster, 小鋪石道の多い。僕は之らの粗面鋪裝が表装なるは時の問題だと思つた。

Paris の Ecole 及 Hospital の前は noises の爲に口に surfacing をやつてゐるやなうか。

Japan regation, st. Nicolas, Denis, Thomas Kirche 等を見る、何れも古き歴史を語つてゐる。

Wien 薄緑りの Donau, 僕には Bier よりその水が甘し。 gross pflaster の斜配置が目立つ。 Ringstrasse, Technische Hochschule, Musie Conservatoire なども Wiener wald をすや Reumann Haus をみて Schönebrunn schloss をみる。 Ferdinand Joseph 老帝が滿腔悶死せる一九一六年を偲んだ Budapest : Elizabeths Geller 幾多の Hängenbrücke が Donau を Cross してゐる。車道が左側通行、歩道は右側通行を特色としてゐる。 brems をもつてゐる荷馬車 grosspflaster の路面が續く。 Unbekante Soldat, Denkmal Kriegs をもつて見た。

Europa の平原をみつめて Wien, Salzburg を汽車が走る。一九二八年の osterreich strassenbau Conference を思ひます。Tirol Rosenheim を再び Deutschland Bayerische Staat

に入る。左に Alpen の Schnee が雄姿を誇つてゐる。 Chiem see をすや Bayern の平原に入る。 München, Hochbrunn の Stadt が眼前にあらはれた。

## 二 ハイデルベルクの夜

Rosenheim をすや München に入る。 goetize Strasse に Beethoven platz の Ecke に泊る。已に詩的である。

土曜日で Vilbig を訪ふ事ができなうので besichtigung にかゝる。

獨このもつ誇り Deutsches Museum を綠色なす Jsar 河のほとりに見る。英の Science Museum 佛の Conservatoire と共に世界に誇る科擧である。僕はその配列、その種目その大に關し深し關心をもちた Berlin の Verkehrs und Bau Museum に比べるとさすがに獨この誇りである。僕は主として Bau の部をみたが歴史的發達の経路を示せる模型を室の兩側の櫺に (Conservatoire にある如き) 更に主なるものは現物を室の中央に配置し、二種に分けて廣く網羅

せるのに興味をもつた。その他時計の部、望遠鏡、化學試驗室等各項目に亘つて一室をもつてゐる。

Bayerische Strasse なる Bahnhof の platform に已に Kleinflaster の begen がその特質を現して嬉し、市内は gross pflaster がひゞく、郊外は Schleisheim, Dachau Nymphenberg と數十キロを drive したが Kleinflaster の begen と chaussierung が續く。只、Schleisheim Schloss の庭園が佛國式をとつてゐるのは、佛國文化に押された三〇年戦争後の疲弊を思はしめた。

一九三四年の次回 International road Congress を Berlin に開かずして茲に選んだのは、開からべき豫定なりし一九一六年の時と同じく、僕が Washington の teilnehmer の Erlung への他に戲言した hier trinken Congress の感がある。München を走つて Augsburg, Ulm に回し Neu Ulm 及び Bayern へ Donau を臨んだ alte Ulm 及び Wurtenberg である。汽車は緑の hügel を匍ぐて走る。

Stuttgart 學都として各のふる Stadt 茲に Bausinger, Te-

tmayer, Bach, Mertens, Wähler が學界に名を垂れてゐる。Präsident von Innen-ministerium, Strassen und wasserbau

の Entung に電話をかけたすべ訪れた。喜んですべ Wurtenberger Strasse を案内した。Tübingen 迄 46km を往復したと云つた。僕は Hochschule を見て午後 Karlsruhe にゆく豫定をもちたが、一日に兩都市をみるの不可能を感じて Tübingen に drive する事を約した。

すべ Damm Strasse にも Material prüfungsanstalt, Technische Hochschule Stuttgart にゆく。本校は See Strasse にあり Neumann が居るが、僕は實驗室に prof. Otto Graf を訪れた。

彼は例の Teddington 式に準じた Model road tester を案内した。速度 3~30km/st をせると云つた。今 beton の試驗面を lagerung (養生) の最中である。更に Metal, Cement, beton holz 等の試驗室をみた。主として Zug machine の多し torsion test の多し、platten test 等が目につく。Richard Baumann が書きた Unterricht im Material-



prüfungswesen をめづつた。

Ennung が自動車をもつて Tübingen まで案内してくれ  
た Hohenheim の Hochschule まであり Curve, Grade の  
多し山間道路を通る granite の Kleinpflaster と chaus-  
sierung がごまへ、solidität beton がある。南部獨逸は石材  
多く clinker は Oldendorf の如き海岸地方にのみあり茲に  
材料選定の特質を示してゐる。

Stuttgart の目抜きの大通り schloss Platz に沿ひ König  
Strasse は holz pflaster であるのを尋ねると、oesterreich  
のネーカリプタスで舗装した、Neekar river の konig bridge  
の路面も同じものであるが今は餘りやらなすと語つた。

plieningen から bezirk Strasse に入る、Leinfeld, Wald-  
buch は Romische Strasse 及び Götze の 伊太利行きをした  
時の通だと言つた Verbreiterung, Ueberhöhung が獨工法を  
示してゐる。

heiss teer が多し、steinbrunn の Umgehung は長々 1,7  
km 今工事中であつた 20cm の pack lage が目立つ、Bö-

bingen には frank colas と cowabit が多し、Vaihingen  
で Emulsion Friabit の Oberhandlung 及び unterhalten をや  
つて居た。

Stuttgart をたつて Karlsruhe, Baden の Hauptstadt へ  
来た時はもう夜だ、tax 及び kaiser strasse, schloss, Hardt  
Wald, Hochschule をかけまはり、第三軌條式電車を路面に  
見、彼の誇りとする森の都を Fuchs から聞かないで更に  
汽車の客となつた。

### 三 ハイデルベルクにて

Baden の Hauptstadt Karlsruhe は schloss の南が市街  
及び、北が Hardt Wald だ schloss の前庭の美しや、mittel  
pflaster の街路、僕は Karl Friedrich Strasse からの kaiser  
Strasse, schloss, moloke Strasse, Kaiser allee, Karl Strasse  
とかけまはり、Badische Strassenbau が Bayern と Nieder  
Rhein の工法に轉化する過程をみた、how Collector の St-  
rassebahn 一部は Third rail 式の電車、Verkehr Museum

→ Hochschule 前の Concrete 鋪裝が氣づく、前庭を有する Haus が多し、この Karlruhe の美しさが現れる。  
Karlruhe を出た D-zug は ober Rhein に沿って一路北に向ふ Heiderberg だ。

Prag 及 Wien に次ぐこの Universität をめぐる Heiderberg 一三六六年に Ruprecht I がつくした、京都を思はしたる様な静な町だ。

Neckar Fluss は美しく Heilingen Berg → Königstuhl の新緑は生きている。philosophen-weg, Blockhaus-weg が林間を縫っている。

この Charles Karl Heinz が言ふ Kathé, Hedi が純情をもちいる。Ich habe mein Herz verloren.

ネットナー博士の above all, the duty の言葉が思ひ出される。時は春、山は新緑に満ちている alte Heidelberg が Karl Theodor brucke → doppel schleuse → Ziegel Häuser-weg に面して多くの椅子を列べて Heinz と純情とを待っている。

Neckar Ufer は總じて砂利道であるが Landstrasse は Macadam だ。Karl's Tor の前には Emission と repair をやっているが古い市街だけに鋪石が大部分だ。Friedrich Eberth の生れた附近から schloss にかけて macadam の oberflächenhandlung だ。

Heidelberg から Rhein の右岸に沿って Elzang がフランクフルト、アム、マインに向ふ Luther を思はしたる Worm を右にみて Gaethe の故郷につく。

Kaiserstrasse, Kron prinzen strasse 殊に Zeil は獨りでは商店街として最も美しいものの一だ。

Goethe Haus は strafönd on avon 及 Chelsea の Shakespeare, Carlyle の家と同様に若い日本人の必ず行く所だ。獨り語と日本語とで案内人が説明してくれる。

Romer Platz, Romer Haus は一三〇〇年の昔を偲ばしめる。Ober Main, Unter Main 及 altebrücke への間、Ufer が新緑をもちいている。

Frankfurt は Hossen-Nassau だ Kleinpflaster が

mittel pflaster になつてゐる。Teerbeton も次第にふえてゆく。

Frankfurt を出た personen-zug は Mainz を前にして Rheim の本流に近いか、Dickerhoff の居る Wiesbaden にく、彼等は Wien Budapest の食堂車で逢つた。旅行中なので訪々のをよこして Rheinstrasse, Kaiserring の鋪石 promenade をあるく、多くの promenade は砂利であるが、こゝは Zement の block だ。こゝに Zement 工場の存在を思はしめる。

あすは Rheinfahrt だ。

#### 四 ライン河の船上へ

船は schnell Fahrt だ、然も靜にライン der Rhein を下る。獨この誇り、獨この持つ唯一の男性の河 der Rhein である。Wiesbaden-Biebrich を午前一〇、二〇出た。船は今 Rudesheim に近づくのである。

船は吊橋をへらして Rudesheim にく、bell になる、

Klingen が詩的に響く、左岸の Hugel に Rochnskapelle が聳えてゐる。一六世紀の木骨 masonry が點在する Rudesheim は人口五千、高ち 10m の Turmstumpf が目立っている。更に一〇分で船で Bingen にくく、こゝで Fusso Mahe を加へる。

船は靜に峡谷に入る、兩岸には uncoursed rubble masonry の石垣が続いてゐる。葡萄が山の斜面を被つてゐる、左岸の Burg Rhein Stein, Sooneck, Schöneburg, Rheinfels, 右岸の Ehrenfels Guttenfels, 島にある die Pfalz 何れも砲窓を有する Schloss だ。Rhein の自然の gross moat と兩岸の cliff が幾百年間之を保存したのだと感ぜられる。島の Pfalz は高 60cm 位 mortar surfacing がはけり rubble masonry を露出してゐる。

船は Loreley にかゝつた。船の進みが遅くなり、Klingen が響く、獨逸の國家的 moat 僕は zum Rhein, zum deutschen Rhein を口ずさんだ。丸太筏の獨逸人がハンケチをふる、崖壁上の獨逸國旗がひらめく。

Loreley-Felsen をすまして船は st. Goar につく。——  
Boppard をすまして左岸やへ開く、左に st. Jacobsberg 及  
Bray が高く立っている Landplanning の rationalization を兩  
岸に見出し得る。

Oberlahnstein 及び die Lahn を合わせた Burg Lahneck が高  
く Cylindersimle を現しつゝある。

今 overwerth の鐵橋をへんした Zhing bridge である。  
船は Koblenz に近づく、僕は Koblenz から上陸して Rh-  
ein の左岸を汽車で Köln にゆく豫定であつたが、Rhein  
に架せる橋を見ないので船をつゞける事にした。

Massive な Tower や abutment にあつた metal arch, 3  
Span をへんしり改修工事の跡をみて Königlich Schloss 近く  
に船はとまつた。例の船橋は左岸近くの部分をあけた自動  
車が船橋の上に多數停車して待つてゐる Kaiser Wilhelm の  
Denkmal が遙かに高くにらんでゐる。河下の然も右岸を見て  
るのが分らない、左岸佛國々境を見らるべきだならと想像を  
たくましようする。西向になるが Stuttgart の Einheit Dent-

mal が西向であり、西向は佛敎思想でない限り否定しない  
筈だ。

die Mosel が Trier の方から合流する、左岸は全く開け  
右岸は Hugel が低くなつた nieder Rhein の姿が次第に出  
てくる。今四時二十二分。

船で晝食をとる 5RM だ、bier がのめないので悲しんで  
apollinaris をのんだ。僕が船の上で Rheinfahrt, der Rhe-  
in を手にし原稿を書つてゐる時、獨逸人は、「ニヤニヤ(日本  
ならばニヤニヤだ)で Wine, bier をのみ、トランプをし  
乍ら亨樂してゐる。景色など見やうともしない。——今 Eng-  
ers Urmitis bridge をへんした——僕は London の海軍省  
の Court にあつた世界大戰の海軍々人戦死者の記念碑を  
思ひだす。記念碑には「吾々の同僚で戦死した人々、生き  
て居れば joy と work のために life を續くべかりし人々  
の爲に」と書いてある。此 joy enjoy が人生の目的である  
のだ——Urmitser werth, weissen-Thurner werth と幾多  
の小島が点在してゐる。

Andernach の Römische Turm が聳えて居る。Wiedbach を右に合流した、右岸の岩壁せまり Wollendorf, Gonningsdorf, Hof Windhausar と Wine の畑が斜面に續して居る。Andernach をついで兩岸再び壁となし Runder Turm は sandstoneらしく見えて居る。

Koblenz 附近で Coursed ashlar masonry の Ufer が此邊は Cobble pitching となつて居る。

右岸は葡萄畑の斜面、左岸は gross Wald Kleine Wald の姿を保つて居る。然しプロシアと異り潤葉樹の Wald だ。初夏の新緑が美しい。

船は Linz, Kripp をついで Remagen に近づくと、人口五千に過ぎなすが metalic arc の橋を架して居る。Koblenz より 39km Bonn より 25km づその間唯一の橋である。

Rolandseck 迄は nieder Rhein の美しい姿が點開られる。Rolandbogen が古風な rubble masonry を示し Hotel Cafe が河岸に沿つて多數の table を列べて居る。

船は Königswinter につくと、人口六千であるが、近くに

Petersberg, Oelberg, Lahrborg その他の丘陵を有し美しい resort と考へられる。

手紙を書つて居る間に船は已に Bonn のあの有名な Rhein Brücke の前にとまつて居る。廣井先生の話を思ひだして遂に先生に敬意を表する。splendid だ pantograph をもつ Straßensbahn が橋上を連結して走つて居る。dunkel grau の色が雄大さを加へる。

時は十七時一五分、factor of safety の小さい忙しい視察旅行の間に Rhein の船上ほど餘裕のある時間をもつたのは始めてである。もう一時間だ。Köln の Hohenzollen Brücke, Hahnenort, Dom, Bayenturm が頭にあらう。

Köln から Belgium, Holland に入り Hannover, Braunschweig づ Dr. Nagel に逢つて試験道路をみたすと program を考へて居る間に船は Nieder Rhein の平原に入つて、一望 Hängel の姿を見る事が出来なす。

もう Bayenthal の鐵道橋、壯大なる Span arch が見えた。此邊で河幅 394m Hohenzollen Brücke の雄大なる arch が

目の前に走つてゐる。

かくして Wiesbaden Friedrich 440 kohlentz 2220 mittel Rhein, kohlenz 440 Köln 2220 Nieder Rhein の Fahr 2 Dampfschiff Vaterland で五月六日終つた今つた Klingen の響きおこつて船上でをみる。

## 五 和蘭ハーゲの夜

Rhein を下つて Köln につた、Kohlentz が provinz Rhein の Hauptstadt であるが人口六萬、Bonn が十萬人なるに茲は Hamburg に次ぐ都市で七十萬を超えてゐる。Friedrich Wilhelm の銅像の所から Hingen Bridge を渡る、

I bar の幅が高欄の部分で 60m を超えて、Hohenzollen Bridge は鐵道及道路橋とが列んでゐる。鐵筋コンクリートの電柱につたが、からんで新緑の美しい姿だ、mitteplaster の舗装がつましく、只平原都市として石材を近くに得難いので始めて、瓦舗装を停車場と Dome との間の廣場の歩道に見た。然し歩道の多くは hogen 形の舗装で然し此地の列

べ方は不細工になつて石材の多い地方の巧な工法に及ばな  
く幹線に Essener asphalt の舗装を見受ける。

Köln から Belgium に向ふ Rhein Provinz の地方道を  
Julich, Darlem ともる潤葉の新緑が列んで chaussierung  
の道路を境してゐる。國境 Aachen はもとフランク王國の舊  
都、Aachen で戴冠式を行つて羅馬で笑はれる」との古言  
を殘してゐる所だ、Aachen から十料で國境だ、戦後 Belgium  
に合併された Malmedy 郡に入る、Herbstal で汽車をの  
りかへ再び Vervier でのりかへた人口十萬の都市で spa  
會議として有名な冷泉 spa は近くにゐる、標準時は W.  
E. Z になつた。

Belgium 沈黙の Bruxelles 僕に對して沈黙の都市を只主  
觀的に見た、説明辯解のない Belgium 舗装をもの足らな  
く感じた。

Bruxelles は mitteplaster が路面を被つてゐる、矩形の  
排列、その石が軌道敷に花崗岩を用ひて、その他は殆ど石  
灰石だ。

縁石も幅 30cm の石灰石で、宮殿前に於ては縫目がほそつきになつてゐる。歩道も同じであるが Rue de Joseph II の附近はコンクリートで僕は *roubenite* かと思つた。

美しい Blvd Waterloo は *promenade* の間の車道が *asphalt block* 及 *asphalt beton* で兩側の車道は鋪石である。

古き *belgium block* をさがしたが今は見受けなかつた。廣場の設計はまづ交通巡查が目だつ、*corinthian order* の *Borse* を始め *Ionic* の舊時代の建物が多い。

鋪石、縁石共に *sand bedding* を有するのみで工事中の所をみた。

Bruxelles から Anvers に向ふ潤葉の並木が鋪石道の兩側をかざつてゐる。何れも石灰石らしい白い石だ、道路新設工事中の土工をみる。橋臺が *Beton* で完成しその裏面は吸水しない爲に *asphalt* を塗つてゐる。小町にも鋪石道だ。

Anvers に向へ、*gare du Sud* と *place du Nord* を結ぶ唯一の幹線街路は *avenue d' Amerique, Britanique, France, Italie* と四大國名をとつて日本のなすのが淋しい。pa-

*ris* の *avenue de Tokio* が *Eiffel Tower* と *Trocadero* の間に *Seine* 河に沿ふて走つてゐるのを思ひだす。

Anverse の *avenue* は二列の *promenade* を有しその間が *asphalt* 兩側が鋪石である。新緑が美しいが *Bruxelles* のより道幅が稍せまいので並木が高すぎると感ずる。

*Schelde Fluss* に日本郵船の國旗をさがしたが見當らない鐵輪車多く *gare du Central* に *taxie* より馬車の *droschke* が却つて多い。

Holland に入る、*Niederland* 名の通り全くの *ebene* である。風車を中央に緑の牧場に牛、馬、豚が汽車の響に驚いて走る。牧場のまはりには *Bach* で入口には内務省の塀の様な柵がある。 *Grands Express Europeens* の食堂車で、蘭人と英、獨ませた言葉でかたり乍ら進む。

*Bach* の兩側に並木があつて *London* の *National gallery* でみた繪の *alley* を思ひだした。

*Rhein* の本流を渡つて *Rotterdam* に向へ、石の少き *Niederland* 驛の *Platons* は *Concrete block* の *asphalt Filler*

が用ひてある、合理的だと思ふ。ziegel clinker も多し筈だ。Ordnung は北海に接してゐるからなどと想像を逞うする。

鐵道は電化してると見え Gatenary の垂曲線があみの如く多く張つてゐる。Haag につく。

## 六 ハノーパーの夜

ベルギー、オランダを経て再びドイツに入り、デュッセルドルフ、エッセンを経てハノーパーに至る。もう午後十一時二十五分、靜に電車の響を耳にし乍ら遙に故國を偲んでゐる。

Holland は平原の國、Haag は海岸の都市、道路材料として特色のものを持たない。従つて雑多の路面を見受ける軌道敷に木塊鋪裝、asphalt stone block あり、車道も同様に künigin palais の前の Noor Deinde straat に Concrete pavement あり一部 asphalt surfacing を行つてゐる。brick 鋪裝も多く、歩道は Concrete block で strand に

eisen Zement の block を用ひてゐる。アーチ形配列の小鋪石は Heerenker の橋面の上に用ひてゐる外は極めて少く僕は vijver のまはりで見ただのみである。Curb 及 Concrete blocks が相接ぎになつてゐるのはベルギーと同じだ。佛、獨と同じく右側通行だ、英は左側であつた。

例の Vredes paleis 平和宮をみて plein 1813 の獨立記念塔をみ、Haag の誇りとする Scheveningsche Weg なる boulevard を通つた、歩道、asphalt の自轉車道、鋪石矩形配列の車道、軌道、砂の乗馬道、之は promenade の六車線を有しその間に植樹帯をもつてゐる堂々たる boulevard だ。Holland の特色は自轉車の極めて多い事だ。

Badhuis Weg も之と略同様の promenade だ。こゝは自轉車道が Ordenburg の Klinker を用ひ、車道は asphalt beton らしくあつた。

Amsterdam は asphalt 及 Cement Concrete が市内に見受けられ Concrete も asphalt の patch が多かつた。軌道は木塊、歩道は Concrete block だ。Vehicle を思はしむる



様な Kanal が多し。

st Antonius bree から plantage minden. Sauphath の美し  
 5 街路を繼じ paleis Volks Vlyt 及び Utrechtsche straat  
 と目貫き街路をかけたはつて概念を律をいつとめた。

Amsterdam さだつて再びフイツ Rhein 地方に向つた。

Utrecht 及び spanische succession War の Conference 等  
 他は近く Drown 及び Kaiser Wilhelm の配所(の)を偶々  
 乍ら進み Bahnhof の Platform は在る所 Ziegel 及び  
 earth road の dirty なるは砂利の少くを思はしめる。

フイツが國境かと Holland の驛 Zevenaar と獨り Elten  
 驛との間に注目したが、國境標も氣がつかなかつた。

Wesel, Duisburg 等繼じ Reg-Bez の Dusseldorf といふ  
 だ。

Dusseldorf は人口四十四萬 Essener asphalt が目だつ、  
 Graf Adolf Strasse 及び Hangen Brücke 及び hogen の Rh-  
 ein 橋等も、königs Allee の美しや、Hampton Court の  
 Long water と boulevard とを組合せたもの、今迄みた

street 及び best のものと感した Hindenburg Wall 及 Corneli  
 Platz も堂々たるものだ。

歩道は Concrete block が多く、車道は前記の asphalt  
 と鋪石が多く、只 Hindenburg Wall の交點に beton pav-  
 ement があるのが目だつ。

Rhein Brücke 及び Hofgarten の美は approach の  
 高さを美化する工法が interest をもつて見られる、Rhein  
 Ufer の promenade も藤棚の様な並木が列んで Rhein Ufer  
 の特色を現はさる。

Land planning を考へてあらる。鐵道、道路等の盛上  
 工、切取工も只 physical 又は mechanical に treat した  
 して一般風地に關係するが故に land planning の一部とい  
 つて、その形その所を考へたいものだ。

Essen は人口五十萬、Krupp 工場は有名だ。Essener  
 asphalt 及び Dr. Danmann が發明したのだ。  
 Friedrich Krupp が三十三歳の時鐵工場をこゝに起し、  
 その子 Alfred Krupp が完成した。Alfred Krupp の statue

に至る所にあり Berlin Hochschule の前庭に Siemens のもと共に V. D. I が建てたのが目立つてゐる。

今職工四萬、分工場が Magdeburg 及 Kiel にもある。

busy street に asphalt があるが、一般は古くよりの鋪石道が多い。

歩道は Concrete block で車道の Gross Plaster & asphalt の fugen が用ひてある所がある。bürger platz に Christ の十字架の Statue が人目をひく。

Bessen から Hannover にゆく、Hamm 市に Kanal が目立ち、その郊外の道路の鋪石道に「所求めて草生ひにけり」と云つた様な地に草が萌えてるのが目だつた。Neuhöekum のヤメント工場を眺めながら Europa 號は bielerfeld を經り Hannover に向つた。

## 八 フラウンシュユワイケ

フンブーは Wolfen Garten と Georgen garten との間

○ Nienburgerstrasse 4 ○ Hochschule, Neues Gebäude

通 信

に prof. Dr. Kulka を訪ねた。彼は橋梁及河川工學の教授であつた prof. Ozzen, O. Francois, Alfred Streck を紹介した後、始め自らその水利試験室を案内した。

毎秒 2000 立のポンプを用ひて三段に水を送つてゐる。

Hydrantische Rinne は赤羽式の trough で glass wall をもち巾 2m あつた、天然河川の試験臺は巾 3m で pea gravel wasser sand を用ひ、迂余曲折たる水路巾 50cm 位のものに水を通し、dike 護岸等が作つてあつた。水位は glass tube で記録して測る様になつてゐる。spanische Weir 及 trough もあつた。

土壓 (Erd druck) の實驗臺は passive pressure を計るのもと active pressure を計るものもあり、dynamometer を用ひて居つた。beton と Erd との friction を測定するものは ton 荷重のもので行ひうる設備もあり、Erd の實驗臺を設けてあつたが特に珍しいものはなかつた。

只摩擦係數を計る小形のものがあつた。更に prof Ozzen 彼は一九一九年東京の萬國工業會議に paper を送つた人だ、

Ozen が beton 及 Strassenbau の實驗室を案内した。

その試験室には學生の机及椅子が二十列べてあり、學生数は七〇人位ときいた。

beton 實驗室は 500ton druck を最大とし總て druck のみは zug のものは別室であつた、dehnung の測定器も Stützgert のものと同じだ。

Concrete の Zug を相當にやつてを、section 8×40cm 長さ 120cm の plain 及 Rid のものを試験してをつた。その壞れた方も相當中央部分に近く壞れて居つた。

Wasserdurchlässigkeit, Zementlaboratorium, 及 behme と bausenger, deval 等も一通り揃つてある。

beton の膨張試験は長 250 cm のもの四本が列べてあつた。chemick の試験室もみたが特色はなかつた。

prof. Ozen に内務省土木試験所報告 No.19 を送つた。prof. Kulka に廣重の石版大津の橋を送つた大に喜んだ。

Braunschweig は人口十五萬の古い都市ですぐブラウンスワイグ洲の土木局に Dr. Nagel を訪ねた。

自動車で Hamburgerstrasse を北へ、市の郊外へ近くの Brenroder Weg に添へ versuchs Strasse に向つた。

外徑 360m 幅 11m の試験路面で延長 1087m ある。

Deutsche Strassenbau Verbandes が行つたもので、1925年 8月 18日より 1926年 正月 23迄かかり、幅は 275m のもの 414m 路幅よりなつてゐる。

路面は 13 種類に大別され、各 5m は空氣タイヤ、クッションタイヤ、ソリドタイヤ及鐵輪タイヤに分けて使用した。

之らの結果は、米國、英國等の試験道路と比較して更に稿を新にして述べたいと思つてゐる。

Dr. Nagel からその Denkschrift をもらつた。

更に彼の arrange してくれた Hochschule に案内されてゆく。

prof. Kaven 及 Ritter が試験道路にもついて行つてくれたので語り乍ら工科大学にゆき、その試験室をみた。二三の著書をもらつた。

萬國工業會議の僕の paper をやるに、interest をもつてよんで二時間あまりも彼の室で語つた。所報 No. 19 もやりたいと思つた。

販りに Dr. Nagel の子で同じく土木局にひとめぐる H. G. Nagel が驛まで送つてカバンまでもつて車にのせてくれた。

かくして相當長き獨逸の旅もチェツク、奥、ハンガリー、ブルキ、オランダを経てかへつた。

## スイス、イタリーを旅して

(諏訪丸船上にて)

ドイツ地方及中歐諸國の視察訪問旅行を Brauns Weig にとり、Dr. Nagel と別れてその Dhf を出た。D zug は Magdeburg を經つ Bern Potsdamer hof につゝ、漸く落付してスイツに於ける結末を結ぶ、über die Strassenbau in Japan を書す。Ministerialrat von Schenk, Dr. Speck, prof. Schenk, prof. Raven, Dr. Spoknik に送り、ドイツ雜誌に

掲載をたのみ、prof. Raven から問合て來た Vialog の説明を書いたりした。數年來の問題であつた Bau auskultung を Funktum に見たのち愈々南歐に向つた。

1931 sept. 11 日本を出て、約 55000km の行程の最後として南歐に向ふ。Berlin Anhalter hof に幾多の思出を残して、吾が國際會議の使命と各國道路視察の行を了るべき最後の F. D. Zug に乗つた、一路南西に走る。

Leipzig に Liegnitz の記念の像がその死後二〇〇年を経た大戦中に立つた歴史的佛を偲び、Weimar を過つてGörlitz、Siller を偲び乍ら Zug は Halle Erfurt を通り、Weser を渡りて漸く tunnel をへつり Frankfurt Heidelberg を暗に過り、Sweiss の Basel を朝に、而して八時半に已到る。Luzern にとまつた。

Luzern は人口五萬、Vierwaldstatter see に面し 2000m の高峯にかこまれ、Rigi pilatus の山頂何れも電車が通じてる。雪が美しく飾られる。

六〇〇年の齡を保つ木橋 Kapellai 橋及 Schweizerhof

Quai, national. Quai の美しきは、此國の公園的氣分を味ひ得る。Löwen Denkmal 幾多の Altpanorama を見た。山國に似合はず Stein 鋪裝が少く、asphalt(rook?) がつく。promenade も beton だ。僕は單なる besichtigung に全く興味を持たなかつたが、刹那的の興味をもたぬ僕は、全く此旅行に單なる besichtigung の無意味なるを知つた。

Luzern を出た personen Zug は pilatus を仰ぎ乍ら六分の急坂をオート式で上る。Alpnastad. Brunig を下つて山の側面に Hutte が多くみられる。Meiringen. Brienz-see の湖畔を下つて Interlaken につく Jung Frau の麓だ Heimweh-fish の上に Cable で上つて Tumm から Jung Frau を眺める。刹那的の興味のない僕は之に上らないうで Spiez に登つ。Bern-Simplon-Mailand 行の Zug は Loetsberg tunnel 14km を下り Brig で更に Simplon に入る 19km portal で電氣機關車にかへた。

汽車は Mailand の autostrade の終點 Arona を下つて雨の中を Mailand に入つた。

Mailand Lombardia 王朝の舊都。Autostrade の創始の地。板石鋪裝が目につく。stone masonry よりなる Roman age の物質文明を思はしめる。Limestone の都なるの板石も菱形に配列され電車軌道は、砂利もまる。via le vittoria veneto 而して Milano の誇りはこの Duomo である。

Roma の st. Peter. London のセントポール Constantino ple (スタンプール) の Sophia, Kain の Don と列んで五大 Kirche 而してこのうちに異彩をみこつる Duomo である。

piazzadel Duomo の vit Emanuelo の Statue も目だつ。Castello Sempione の moat は封建時代の殘虐を忍ぶに餘りある。異域にありては、旅行者は何れの土地に於ても始めて到着した隣間に於ては、その土地に於て最弱者である。求め欲するものは Freundlichkeit をあつて決して金錢的廉高ではない、旅行の度に此新參者に對する Freundlich な氣分を欲求する事が深し。

Milano より北へ Como 湖 Varese. Sesto に向き自動車道は Concrete-pavement で餘りによく知られる。

Milano より Lombardia 平原をまじしべらにポー河の流に沿ひて Brescia, Verona, Vicenza, Padova を過ぎて水の都 Venezia につく、Venezia は中世紀地中海の海上權を把握してゐる時代は文化の中心であつた grand Canal が主要の交通線だ、gondola が遊んでゐる。

僕は Dampfcr のりつゝ一巡する、gondola の悠々はまじかたしい、gondola にもついでみると云ふ利那的興味は全くなかつた。

都市の中心 Molo, piazza marco にゆく、僕には New York の Cony island, England の Brighton 等と興味なかつたと同じく何等の興味ない、只路面は板石が多く事 Main land と同じく歩車道の區別のない狭い街路が多かつた。Venezia を出た Schlaf-wagon lit は、フイレンチエポログナをまじつて所謂 epoch making の Roma に向つた。Roma は板石なく mittel plaster が多く logen 少く多くは菱形矩形が多い。新しい street には klempflaster あり via xx Septembre の如き商業街は asphalt だ。

通 信

舊き structure として見るべきもの多いは云ふを待たぬ Foro Romans 此處にケーザルが「ブルタス御前もか」と友情を裏切られた悲痛の最後をとげた跡 Co. osseo p. action Terme di Caracalla 何れも pozzolans を用ひつゝ Concrete だ brick dust とシヤモットとが混じつゝる。

Roman wall は Roman tile から積まれ pia metroria に見た。その Roman brick の大さが arch ring の Thickness を標準として定められたかの如き感がする。

st. sebastiano より via appia が放射され、Giovanni より via appia Nuova が何れも南方に放射されてゐる。6. B. C. に築造された ponte Fabricio は limestons voussoir と Roman tile よりなり 186 A. D. に出来た ponte S. Angels も同様に二〇〇〇年近くの壽命を誇つてゐる。Marcelli, Pantheon, Farnese, Universita, palazzo di Giustizia Castel S. Angels 而して S. Pietro 及 Vaticano 何れも Roman 時代の文化を誇つてゐる piazza del popolo 及 Corso Umberto の通りも同じだ Goetze が彼の父政に Ro-

ma に居つた家もこのにある piazza venegia 及エトスエロ二世記念塔は新しい、その背後の senatorio は一階が Roman tile その上は現代的 brick の structure だ。

Roma を出た Zug は Roman age の Trevi その他よりの水を集めた aqueduct の廢墟に沿つて一路南に走る。

Napoli は Vedi Napoli e poi muori 即ナポリを見て死ねと云はるゝ Napoli は亦板石鋪装の都だ diagonal laying だ asphalt は少く Sicilia の rock asphalt block らしい方塊が via della Libertà に見られる pferd droschke の多きに驚く。

Vesuvio の煙は絶えなす stazion circumvesuviana から電車は Vesuvio 及 Pompeii をみる。

Rosina から山の上迄電車がある、僕は Pompeii 舊都の構成を見たものと yung Frau と同じく判別的興味のない爲に登らなかつた。Pompeii 79A.D. の八月二十四日の噴火で埋れ一七四八年堀り始めた。人口推定二萬と云はるゝ Pompeii 僕は porta di Nola より入り strada di Nola を進

み civic center Foro にゆく。

歩車道を分ける即異なる交通形式に對し異なる平面的 design を與ふる工法は極めて完美してゐる、狭き小路で車道幅一米位のものもある。これ當時の車輛が一乃至一、二米のせまいものだつたからだと記憶をよび起した。

Reg 及 block の番號は時計文字で大理石に堀り付けて街角に掲げてあるが plot の番號が Arabia 數字で掲げてゐるのは後代の作で當時は Arabia 數字は用ひられなかつたと思ふ。車道は Cyclopean 大の丸石を列べ交通の爲の ruts も見受られる。

歩道は Kies, Stein, Concrete 種々あり幅 30cm 位の所がある。Concrete も石灰コンクリート、火山灰コンクリートでラテン系人の得意とする Tuille が見受けられる beton 仕上の Tuille はいつで始めて見た。

一巡して再び Neapel にかへる。  
かくして吾が道路視察の行は終らんとし、來るべきポトサイド、セイロン、シンガポール等に經濟的屬國としての

道路工法を見出さうと思つてゐる。

America が asphalt, beton で、英國が Teerackadam で、ドイツが Teerbeton で、Sachsen が斜形小鋪石で、Bayern が bogen Kleinpflaster で、Nieder Rhein が中鋪石、タンマンアスファルトで、ヘルギーが ohann で、Holland が cimker, beton, asphalt で、France が Steinpflaster 及乳劑 asphalt で、Italien が plattenstein, でその地方的特色を誇り地方的合理を證してゐる。而して Egypt より India Hongkong に至る地方は只之らの經濟的屬國たるのみに止り、何等その地方的合理、地方的特色を見出し得ざるに至るべきかを恐れてゐる。宗國の經濟的支配を受けてその宗國の合理をそのまゝ受け入るゝが如きに至つては、只憐みを覺ゆる外何等の感覺をも起し得ない。

顧みて思ふ近代の經濟社會の現象を具現し始めたる織田豊臣の始めより、道路路面改良として砂利を使用し、徳川及明治の中世迄、とに角現代交通の表現する迄は吾國道路の問題は砂利道を以て解決し得た、國際的日本として世界

に立つに至つて交通の革命に逢遇したる今日、吾國の道路は米、英、佛、獨の各特色ある工法に對し何を以て解決すべきか、先覺者、先輩の苦心を思ふと同時に現代吾々に殘され課され擔當すべき重大なる責務たると共に本邦技術界の努力を祈つて止まない。

諏訪丸は昨七月一日朝 *Mellia Etona* を右に見乍ら靜に南地中海を走り *Candia* を左に仰ぎ乍ら鏡の海、紺碧の上を走つてゐる。

### 印度洋を経て故國へ

吾が *Monte* 諏訪丸は日章旗を輝かして靜に洋上を走つてゐる。舷側には *air in water Emission* を湛え乍ら十八秒の *pitch* で *pitching* し乍ら進んでゆく、エマルジョンは *stabilizer* を有し乍らすぐ *break* する。

一 *Egypt-Portsaid* 及 *Cairo*

4 Juni ち *Sultan Said* の名をとつた *Portsaid* に錨はあろさながら、纜をとつた *Lesseps statue* が入港船を眼下



に見下してゐる。

Chalier Sultan Hasen の Main street 及 Canal に沿つて  
 上へ asphalt deck をもつてゐるが、何れの路面も相  
 當 ramping に仕上げ Trinidad asphalt の Modified Topaka  
 らしく感じた。

Cairo に向つて汽車は Canal に沿つて Ismeria 迄南に走り  
 之と並行に asphalt の road が續つてゐる。Ismeria は人口  
 一六〇〇〇、運河會社の本部あり、Camel, desert 木骨粘土  
 の natives の家屋等々全く風色を一變してゐる。降雨が全  
 くないので木骨粘土を保つてゐると思つた。Ismeria から西に  
 向つて走る、綿花の field が續つて Egypt の寶庫を説明  
 してゐる。

Cairo Egyptian Museum の Tutu-Ank-Ahmen-18dyna-  
 sty の豪華を偲んで、歐洲文化の源を味ひ得る Pyramid  
 of cheops-1dynasty の Khufu の Tomb 及び Herodotus  
 が 45 BC に紹介した大遺跡 limestone の dry masonry  
 work 及 syenite の arch 及び lintel, sphinx, 及び Camel の

背土に靜に 3733B.C. の masterpiece として interest が湧く。

asphalt Concrete, asphalt dressing が續つてゐるが Nile  
 bridge 上は高温の爲に rats が氣付かれる。

十九世紀 Egypt 建國者 Grecian の Mohamed-Ali  
 Mosque をつくつてゐる alabaster を Italian より運び來り  
 Trinidad より asphalt を surfacing を行つてゐる現在の  
 Egypt を沈思した。

Cairo より Suez 迄の desert を Car に drive する壯快  
 味あり、green を持たない景觀の中で、月を仰ぐ靈感を  
 inspire された Sinai 山の八〇〇〇呎の高峯に Mose の十  
 誡を思ひ出ながら、清水の河の流れ込むのを持たない、  
 red sea の聲を Mocha Coffee の産地 Mecca, Medina を思  
 ひながら船は Socotra から Indian Ocean に入る。

二 Ceylon-Colombo  
 Jetty 4 の Main street, Yorkstreet の roadway は總つ  
 asphalt 街道を Concrete の現像に Block, curb の con-  
 crete だ。

civic center の district の外は、歩車道を分けてなく、Colony は本國人の利益を主とする、drive を目的とする。従つてその本國人のうちには pedestrian は居ないのだと思つた。Gale face Hotel, mount Lavenia Hotel 等々總て本國人の爲に立つ Colony の施設をみた botanical garden 之は本國人に對して植物園であり土人に對しては單なる公園にすぎなす。

### 三 Singapore

Penang 島の東印度會社出張所の一書記 Raffles が僅か三二歳にして、一八一九年之を買收してその governor となり今の基礎をなしたと思へば Raffles Museum 大學 Hotel その他總てのものに彼名を冠してゐるのが首肯される。彼の妻の遺骸は永久に止つて彼の遺蹟を守つてゐる。Connanght road, orchard road 總て asphalt で舗装され civic center の district の外は歩道なく arcade を歩道としてゐる。交通型式の重要な一方法だ、trackless trolley の bus が頻繁に traffic を運び交通巡查の指示標が奇異に感じら

かる。brick column, brick wall と mortar surface を行つて yellow paint を施した熱帯特有の色彩が目立つてゐる。

### 四 Hongkong

一八四八英領となつてよりの經濟的地位は云はずもがな船は靜に kowloon に横付けになる ferry へのついで city of Victoria にゆく。

Ufer の Connanght road, charter road, de Vieux road, Queens road 總て asphalt 敷な 12900km の Trinidad の lake asphalt を Queen Victoria の statue platz から ice house street を經つ Hongkong 島の drive に移る。

Dressing, grouting の asphalt 舗装とその表面に Teppich を施してゐる。Aberdeen から Repulse bay beach に至り Resort を見て peak を背面から昇る、曲線と勾配が續く、Superlevation が不完全な申譯的にしてゐる peak Hotel へのついで Cable car へのついで 130 ft. 街路に arcade の side walk が目立ち、荷馬車が全く形を没して自動車と人力車と sedan chair だ—— sedan chair は古來の交通用具で英

國の Charles I が Cromwell の變に當りて一六四九、一、三〇 st. James palace から此の sedan chair にのつて處刑場 White Hall に行かれたのを聯想した London の Science Museum にある。

Kowloon は全く支那街で Nathan Road の main street も店舗の姿が全く變つてをり granite の dry masonry で pointing のみに mortar を使つてゐる施工が多い。side gutter は L 形と grooved gutter とがあり、後者が此地方の特色だ。

## 五 上 海

故國が歩一歩近づいてくる、東洋の自由市らしい上海は楊子江の支流黃浦江の 15 哩上流にある。吳淞で pilot をのせて靜に暗灰色の江を上つてゆく、低水敷の芝生、閘門堤防の並木の間を自動車が行くのが手に取る如く見ゆる。船は滙山碼頭につく concrete の frame work だ、共同租界に入り蘇州河の garden bridge を渡つて佛租界に入る。南京路及福州路（俗稱、大馬路、四馬路と云ひ Exie の運

轉手に前者の名を云つて知らず、後者の名稱で通じた）の civic center 何れも瀝青鋪裝で電車軌道は tooling stone を有しその大さは中部 Rhein の Mittelplaster だ。ブロックの軌道敷もある。競馬場を一周して縣城にゆく、支那人は城内と云つてゐる。

楕圓形で舊城壁の大東、小東等の七門は革命後取り崩して道路としたが、城内は歩車道の區別なき狭き道路のみで極めて混雜してゐる。路面は栗石、小玉石の小羽立だ。

河岸の芝地に一八七〇年前後の英公使 Harry Parks 及總稅務 Robert Hart の銅像を見ては一三〇〇頃の倭寇記念碑を立てたくなる。倭寇の上將軍が此邊一帯を占領してたぢやないか、英國の Anglosaxen dynasty 及 Norman dynasty 共に Viking 時代の海賊の攻略がつくつたのだ。

上海の街路は極めて交通が混雜してゐる之は自動車、人力車、自轉車、手小車、殊に後者の手挽荷車の多い事が此混雜を助長してゐると思ふ。速度の不均一と街路横斷の場合の市民の訓練の不足が目立つた。

六 歸 航 路

船は今より一時間前即 1st July 10

A. M. に 滙山碼頭 Wayside Wharf を  
 離れた Yang Tze Kiang の濁流をまきり  
 乍ら舟山列島に近づいてる。

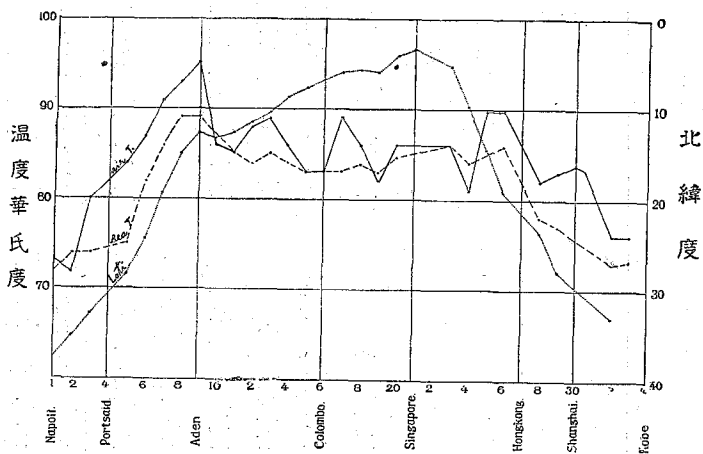
Napoli を出で、神戸まで三四日、日

本の山間地方にある混合列車と同じく  
 人と貨物とを併せて 12~14 哩の速度  
 でのろろくと現代離れのした航海を  
 つづける。世界の通信圏外に居る事二  
 週間……自動車その他の交通車輛は坂  
 路、曲線部分及平垣路に於て各その運  
 轉形式を適應するけれども、船は靜な  
 る内海も激浪の大海も同じ Condition  
 で外力を無視して進んでゆく、……活  
 動寫真と云へば Tokio に限ると思ひ込

て見て居たらう」と思つてゐる。young boy が時代を造る頃

は、一九三一年前後の印度洋航路は十  
 三哩位の速度で走つたことを笑ふに至  
 るだらう。一八六〇年代の伊藤俊輔井  
 上聞多の二青年が喜望峰をまはつて石  
 炭船で、Bundicks の日を費した事を現  
 在考へるが如くに。

航海中毎日の正午に於ける氣温と海  
 面に於ける海水の温度及其その位置の緯  
 度を圖示すれば次の様である。



Red sea は極めて氣温高く 95°F に  
 達した事があつた。印度洋は mon soon  
 ありて氣温低下し支那海でやまた高  
 まつた。

2 July 正午濟洲島をみる、最初の日

む現在の young boy が「昔は無聲映寫を間抜けた顔をし 本だ、カンラ山が高く聳えてるのが嬉しい。玄海灘をすべ

るが如くに走つてゐる。

七 本土を見る

3 July あさ 七時船は九州の北岸を右舷にみて次第に進路をかへ様とする。若松、戸畑は向ふだから、小倉の海岸が手にとる如く見ゆる。

紀元前八年、神武天皇御東征軍が瀬戸内海、豊後海峡で彦を Pilot として宇佐に寄港され再び進路を北にとり、下關海峡をすぎて玄海灘に入り、浪荒き大海を前にしてひきかへし、再び下關海峡をすぎて廣島灣、埃ノ宮に寄港され

たのだらうなど、回顧し乍ら、大里を右舷に彦島を左舷に

靜に下關海峡をすぐ land projection に重きをおく日本、

下關長府間の工事が目立つ、歩一步日本の心臓につき進む。

21 sept 一九三〇年より 4 July 一九三一年迄二九七日、僕

は進歩の日本、向上の日本を見出したいと強き期待を以て

日本及東京を待つてをる。

(昭和六年七月三日午前九時三十分、諏訪丸にて)

後記 「英國を訪ふ」及「伯林より」の二編不着か？に

つき改めてものしたいと思つてゐる。

